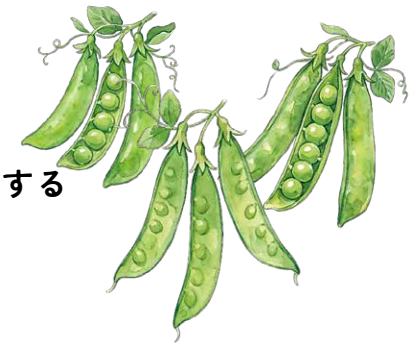
Challenge!
家庭菜園



エンドウ

マメ科の連作を避け、酸性土を改良する

園芸研究家●成松次郎



エンドウには若いさやを食べるサヤエンドウ、実が大きくなり、みずみずしいさやのスナップエンドウ、若く充実した豆を取る実とりエンドウがあり、それぞれ目的に応じた品種を使います。発芽適温は18～20度、生育適温は15～20度で、冷涼な気候を好みます。

［畑の準備］エンドウは同一の畑で連作すると生育障害が出やすくなります（いや地現象）。土壌酸度はpH6.0～6.5が適しているため、４、５年はマメ科を作っていない畑を選び、酸性土を改良しましょう。

種まき２週間前に畑１㎡当たり苦土石灰100gを全面に施し、土とよく混ぜておきます。次に、１週間前に畝幅120cmを取り、幅約30cm、深さ約20cmの溝を掘ります（図１－１）。この溝１m当たり化成肥料（NPK各成分10%）100gと堆肥１kgを入れ、土とよく混ぜて幅40～50cmの畝を作ります（図１－２）。

［種まき］中間地では10月中旬～11月上旬が適期で、それより早まきすると年内に生育が進み過ぎ、寒害を受けることがあります。じかまきでは、株間約30cm、深さ２、３cm、１カ所４、５粒をまきます（図２）。発芽の頃に鳥害を受けやすいため、防寒を兼ねて不織布をべたがけして保護します。発芽がそろったら２本を残し、他は間引きます。なお、６～９cmポットで育苗する場合、１ポット３、４粒を深さ２、３cmにまき、間引いて２本にします。根鉢が形成された頃（本葉３、４枚）に植え付けます。

［支柱立て・ネット張り］草丈が約10cmの頃、約180cm間隔に高さ約180cmの支柱を立て、キュウリネットを張り、できるだけ早く巻きひげをネットに絡ませます（図３）。

［追肥］春先に生育の勢いが良くなり始めた頃と開花始め頃、畝の両肩に化成肥料を畝１m当たり約10g与えます。スナップエンドウ、実とりエンドウでは収穫期にも同様に追肥しましょう。追肥後は株元に土寄せをします。

［病害虫防除］さやができる頃からハモグリバエが多発します。登録農薬などを使用基準に従って防除します。うどんこ病も登録農薬で予防します。

［収穫］適期に合わせて収穫しましょう。サヤエンドウは、子実の肥大が始まる開花後15日前後に収穫します。スナップエンドウは、開花後25日前後に収穫します。さやが鮮緑色で厚みが約１cm、豆が肥大してさやの断面が円形に膨らんだ頃が目安です。実とりエンドウは、さやをむいたときに子実が軽く離れる頃に収穫します（図４）。

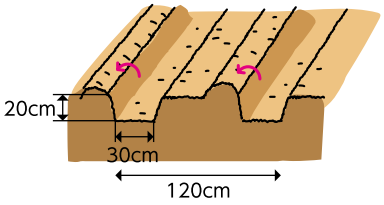


図1-1　畑の準備1

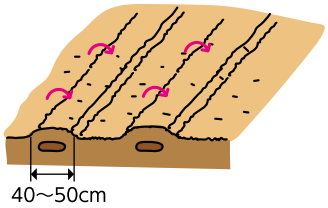


図1-2　畑の準備2

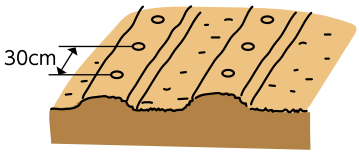


図2　種まき

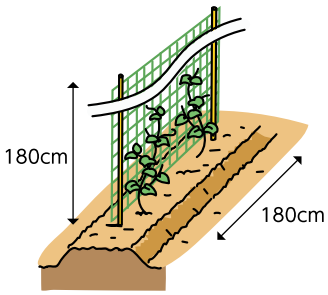


図3　支柱立て・ネット張り

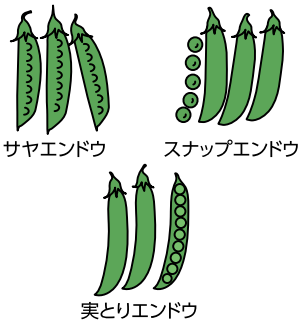


図4　収穫

栽培カレンダー（エンドウ）

気候帯	10月	11月	12月	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	備考
冷涼地						●	▲					早まきは苗作りをする
中間地暖地	●											苗作りもできる

● 種まき　--- 苗作り　▲ 植え付け　— 生育　■ 収穫

※関東南部以西の平たん地を基準に記事を作成しています。